

学生便覧 2025年度

国際人文学部
国際交流学科

B2025-3-2

目次

I 教育研究上の目的.....	2
II ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）.....	2
III カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）.....	2
IV 授業科目について.....	3
V 授業科目の単位と認定.....	3
VI 卒業に必要な単位について.....	3
VII 進級条件及び各学年における標準的な修得単位.....	4
VIII 授業科目の学年配当と履修すべき単位数.....	5
1. 全学部共通基盤科目群.....	6
2. キャリア形成科目群.....	11
3. 学部コア科目群.....	11
4. 外国語科目群.....	12
5. 専門基礎科目群.....	17
6. 専門科目群.....	18
7. 英語教員養成科目群.....	23
8. 特設科目群.....	24

I 教育研究上の目的

国際人文学部は、世界の多様性と人間の諸活動についての学際的な教育研究を通じて、語学力と国際的な教養、社会人に必要な知識とスキルを十分に身に付け、国際社会で活躍できる人材を養成する。

国際交流学科は、国際社会を構成する多様な人々の諸活動や諸課題に関わる人文社会系の教育研究を学際的にを行い、実践的な語学力、国際交流のための知識及びコミュニケーション能力を身に付けた人材を養成する。

II 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

国際人文学部 国際交流学科は、所定の単位を取得し、かつ以下に該当すると判断した場合に、学士（国際交流）の学位を授与します。

- ・日本語、英語、選択した第二外国語を読み、書き、聞き、話すことによって、適切なコミュニケーションをはかることができる。
- ・国際的な視点から、日本語と、日本の文化と社会を理解できる。
- ・国際交流を積極的に進め、国際的な場で協働を行うために前提となる諸要素について理解することができる。
- ・言語、文化、社会の多様性を認め、国際社会の課題を発見することができる。
- ・自ら見出した課題について、適切な方法で情報収集・検討・考察し、その結果や自己の見解を、効果的な形で発表・活用することができる。
- ・課題解決に向けて自ら考え、努力し、その過程を協調性やリーダーシップをもって他者と分かち合うことができる。
- ・国際交流の知識とコミュニケーション能力を活用し、国際社会の発展に貢献することを目指して行動することができる。

III 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

国際人文学部 国際交流学科では、教育研究上の目的*及び学位授与方針に基づき、国内外の国際的な場で活躍できる人材を育成するため、以下に掲げる方針によりカリキュラム（教育課程）を編成します。

- ・文理融合型リベラルアーツとして、幅広い教養、新たなリテラシー及び総合的な洞察力を身に付けるため、全学部共通基盤科目群を設置する。
- ・学生生活及び卒業後の社会生活の充実を目指し、持続的なキャリア形成や生涯学習に資する意識形成をはかり、主体的・自律的な学修方法を修得するため、導入期教育・ポートフォリオ作成を含むキャリア形成科目群を設置する。
- ・グローバル化する文化や社会、コミュニケーションのあり方について多様な切り口から学び、国際社会に生きる人間としての教養を身に付け、人文学を学ぶことの意義を明確にできるように、学部コア科目群を設置する。
- ・実践的な英語コミュニケーション能力、第二外国語能力、留学生・指定された帰国生徒等が日本語コミュニケーション能力を身に付けるため、外国語科目群を設置する。
- ・世界の文化、国際社会・国際交流・国際協力・国際コミュニケーションについて、専門領域の基礎を学ぶため、専門基礎科目群を設置する。
- ・国際社会や国際関係について学び、異文化理解と国際交流、国際協力に必要な知識と実践力を身に付けるため、専門科目群Ⅰを設置する。
- ・言語や異文化などを切り口に国際コミュニケーションについて学び、専門的な知識・技能とコミュニケーション能力を身に付けるため、専門科目群Ⅱを設置する。
- ・日本語教員養成に係る専門的な知識・技能とコミュニケーション能力を身に付けるため、専門科目群Ⅲを設置する。
- ・演習及び研修・インターンシップを通して、専門的な知識を学び、その実践と発展をはかるため、専門科目群Ⅳを設置する。
- ・専門分野の学びに係る教育職員免許状を取得するため、英語教員養成科目群を設置する。
- ・多様な学びを実現し、学生が自らの学びを深めるために、自主選択科目枠を設置する。
- ・アセスメント・ポリシーに基づく学修アセスメント・プランを提示し、学位授与方針に示す能力の修得状況及び学生の成長に伴う達成度を客観的に測定、評価する。

以上の教育課程の編成に基づき、各授業内容に応じて、知識の修得を目的とする「講義」、知識や理論を組み合わせ実践力を養うことを目的とする「演習」、事象の検証や実践的な応用、技術や技法の修得を目的とする「実習」を取り入れた授業形態を採用します。また、社会のニーズを踏まえた教育を展開することができるよう、実務家教員を配置します。さらに、合理的な授業人数の調整やICTを活用した教育方法を導入し、より効果的な教育を実施します。

IV 授業科目について

国際人文学部国際交流学科における授業科目は、全学部共通基盤科目群、キャリア形成科目群、学部コア科目群、外国語科目群、専門基礎科目群、専門科目群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、英語教員養成科目群、特設科目群から構成されている。

なお、英語教員養成科目群は、教職課程に登録している者（教職課程登録カードを教務課に提出し、定められた期日までに登録費及び課程費を納めた者）のみが履修することができ、修得単位は卒業単位に含まれない。ただし、4年次に教育実習受講要件を満たす者は、英語科教育法の修得単位を卒業単位に含むことができる。

V 授業科目の単位と認定

本学部では単位制を採用している。単位制とは、一つひとつの授業科目に一定の基準により定められた単位があり、履修した授業科目に対して、試験もしくはその他の方法により学習評価をしたうえで、その単位を認定する制度である。

単位の認定は、S・A・B・Cの4段階の評価により行う。Fの評価については、単位を認定しない。なおN・Hは、単位振替により単位を認定したことを表す。

VI 卒業に必要な単位について

卒業に必要な単位は、次の表に示すとおりである。

英語教員養成科目群、特設科目群は卒業に必要な単位には含まれないので、注意すること。

系 列	学部・学科	
	国際人文学部 国際交流学科	
		必 要 単 位 数
全学部共通基盤科目群		23
キャリア形成科目群		7
学部コア科目群		4
外国語科目群		28
専門基礎科目群		8
専門科目群Ⅰ（国際関係・国際協力）		10
専門科目群Ⅱ（国際コミュニケーション）		10
専門科目群Ⅲ（日本語教員養成）		なし
専門科目群Ⅳ（ゼミ研修・実践）		8
英語教員養成科目群		なし**
特設科目群		なし
自主選択科目 自らの学びを深めるために、上記の科目群（英語教員養成科目群、特設科目群を除く）より、それぞれの科目群で指定された単位数とは別に、卒業に必要な単位を14単位以上修得すること。他学科履修として、国際文化学科で履修が認められた科目をこれに加えることができる。		14
計		126 単位

* 国際交流学科には「国際関係・国際協力コース」と「国際コミュニケーションコース」の2つのコースがあるが、国際交流学科生としての専門性を高めるために、専門科目群Ⅰより10単位以上、専門科目群Ⅱより10単位以上修得すること。また専門科目群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ合計で、34単位以上修得すること。

** 英語科教育法の修得単位は、教職課程に登録している者で4年次に教育実習受講要件を満たす者のみが、卒業単位に含むことができる。それ以外の科目の修得単位は、卒業単位に含まれない。

VII 進級条件及び各学年における標準的な修得単位

1年から2年への進級にあたっては、15単位以上を修得していること。

2年から3年への進級にあたっては、50単位以上を修得していること。また、1年次の必修科目の単位を修得していること。ただし、50単位以上の単位修得がある場合には、これらの科目の未修得単位数が6単位以下の者の進級を、教授会の決定により認める場合がある。他に、2年次に長期留学をし、海外留学に伴う単位認定を予定している者の進級は認める場合がある。

3年から4年への進級にあたっては、3年間の学業を遂行し、84単位以上を修得していること。各学年における科目および修得単位数の目安は、次の表に示すとおりである。

履修登録単位数の上限（キャップ）は、各クォーター（S1, S2, F1, F2）の履修登録については16単位まで、サマーセッション（SS）とウィンターセッション（WS）は6単位までとし、年間の履修登録については原則 42 単位以下とする。

年間の履修登録単位数は、4月入学生、9月入学生ともに、4月から3月の期間で計算する。

通算GPAが2.0以上の場合、年間49単位までの履修登録が認められる。ただし、42単位を超えて登録した者が通算 GPA2.0を下回った場合、次のクォーターの履修訂正期間に、年間の登録単位数が42単位以下となるよう登録科目を削除しなければならない。

※以下に標準的な修得単位を示すが、履修にあたっては「VII 授業科目の学年配当と履修すべき単位数」を参照すること。

科目群	必修/選択	1年次	2年次	3年次	4年次	小計	科目群合計	必修科目
全学部共通基盤科目群 ※	必修	3				5	23	「アカデミック・スキルズ」 「デジタルアプリ A」 「データサイエンス I」（2年次履修を推奨）
		2						
	選択	12	2	2	2	18		
キャリア形成科目群	必修	3	2			5	7	「基礎ゼミ A・B」 「キャリア形成演習」
	選択			2		2		
学部コア科目群	選択	2	2			4	4	
外国語科目群 ※※	必修	12	4			16	28	「TOEIC A・B・C・D」 「Basic Writing Skills I・II」 「Intermediate Practical Discussion Skills I・II」 「Intermediate Writing Skills I・II」
	選択	4	8			12		
専門基礎科目群	選択	2	6	2		10	10	
専門科目群Ⅰ （国際関係・国際協力）	選択		6	10	4	20	20	
専門科目群Ⅱ （国際コミュニケーション）	選択		6	10	4	20	20	
専門科目群Ⅲ （日本語教員養成）	選択							
専門科目群Ⅳ （ゼミ研修・実践）	必修			4	4	8	14	「国際交流演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」
	選択	2			4	6		
英語教員養成科目群								
特設科目群								
学年別修得単位数 計		40	38	30	18	126	126	

※ 全学部共通基盤科目群においてはさらに、英語科目を、「Fundamentals of English I・II」, 「Oral Fluency I・II」, 「English for Specific Purposes A・B」, 「English for Advanced Studies A・B」から指定されたクラス（8単位）を含め、12単位以上選択必修し、かつ、第二外国語一か国語4単位（同一第二外国語のⅠ・Ⅱ）を選択必修。外国人留学生は、全学部共通基盤科目群の備考欄を参照すること。

※※ 外国語科目群においてはさらに、「Intermediate Reading Skills I・II」, 「Oral Fluency III・IV」, 「English for Advanced Studies C・D」, 「English for Specific Purposes C・D」から指定されたクラス8単位を選択必修し、かつ、全学部共通基盤科目群でⅠ・Ⅱをともに修得した第二外国語と同じ一か国語4単位（同一第二外国語のⅢ・Ⅳ）を選択必修。外国人留学生は、外国語科目群の備考欄を参照すること。

VIII 授業科目の学年配当と履修すべき単位数

〔留意事項〕

- (1) 「Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」で表示された科目は、数字の順序に従って履修するものとし、同一クォーターでの複数履修を不可とする。Ⅰを修得することでⅡの履修を可とする。
- (2) 「Ⅰ・Ⅱ」で表示された科目は、アルファベットの順序に従って履修する必要はなく、同一クォーターでの複数履修を可とする。
- (3) 「ⅠⅠ・ⅠⅡ」は一方又は両方の履修を可とする。ⅠⅠを修得した場合はⅠⅡの履修を、ⅠⅡを修得した場合はⅠⅢの履修を可とする。
- (4) 実際の履修については、シラバスに記された各科目の履修要件をよく確認すること。
- (5) 単位数が○で囲まれた科目は、必修科目である。
- (6) 本学はクォーター制をとっている。ほとんどの科目は、ⅠⅠ、ⅠⅡ、ⅠⅢ、ⅠⅣの4つのクォーター、ならびにⅠⅤ、ⅠⅥの集中講義期間のいずれかに開講される。ただし一部に、ⅠⅠ、ⅠⅡまたはⅠⅢ、ⅠⅣを通して開講される科目がある。またⅠⅤとⅠⅥの集中講義期間には、数日間同じ科目の授業が続けて実施される。さらに、研修・インターンシップ等は、学期の枠と関係なく実施される場合もある。
- (7) 全ての授業科目は、年度初めに履修登録を行う。
- (8) 原則として上位学年の者は、下位学年に配当されている科目を履修できる。たとえば1年次の枠のみに単位数が記載されている科目であっても、2年次以降も履修できる。ただし、授業内容は学年が進むほど専門性が高くなるように設定してあるので、それぞれの学年の枠で履修することが望ましい。

1. 全学部共通基盤科目群

全学部、全学年の学生を対象として設置される科目群である。各学部の専門の学びの基盤となる文理の壁を越えた幅広い教養を身に付けることを目的とする。

【カテゴリー】

- (1) 大学での学びの基盤を固める—文献を調べる, 論文を書く, プレゼンテーションをする, 議論するための基礎を学ぶ
〔スタディ・スキルズ, 外国語(日本語)〕
- (2) 現象世界をつかむ—科学と技術の未来を切り拓く実験科学の知見, 数理的思考を深める
〔生命科学, 環境科学, 統計学, データ分析の基礎, 情報セキュリティ入門, 人工知能, データサイエンス, デジタルアプリなど〕
- (3) 現代社会の課題に挑戦する—学問の領域を超えて複眼的思考を身につけ, 複雑な現代社会の課題に挑戦する
〔現代史入門, エリアスタディーズ, 観光の現在と未来, 国際日本学, スポーツ社会学, 地域ボランティア論, 地域プロジェクトなど〕
- (4) 歴史をひもとく—歴史を読み解く力により, 現代社会の通念をうち破り, 未来社会を切り拓く
〔日本の歴史, 西洋史, アジア史, メディアの歴史(テレビ番組), 科学史など〕
- (5) 社会の構造的変動をとらえる—現代社会が直面する複合的な課題を構造的に分析する力を養う
〔マーケティングの基礎, 広告戦略論, 社会学, 社会調査, 法律学, 著作権, 政治学入門, 国際関係論, 経済学入門など〕
- (6) 世界を創造する—文化, 芸術, 文学を全人的に体験して創造力を高める
〔美術史, 演劇・舞台芸術論, 日本の文学, 日本の伝統文化, 異文化適応論, 世界遺産のいまなど〕
- (7) 知の知を追究する—人間性の本質を探究し, 新しい時代の理念, 理想を追究する
〔哲学, 倫理学, 宗教学, 文化人類学, 考古学, 教育学, 心理学, 言語学, ジェンダー論など〕
- (8) 心と身体の充実をはかる—トレーニング, チームプレー, ゲーム参加などを通して, 豊かな人間性, 社会性を育む
〔スポーツ科学, ダンス〕

系列	カテゴリー	授業科目名	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
			1年	2年	3年	4年		
全学部共通基盤科目群	(1) 大学での学びの基礎を固める	アカデミック・スキルズ	①				1単位	「アカデミック・スキルズ」は必修
		SDGs×大学生	1					
		Fundamentals of English I	*2				12単位	■日本で12年間の学校教育を受けた学生または同等の能力を有している学生 *のついた科目8単位を必ず含めて, 12単位以上を選択必修 ※「English for Specific Purposes A」から「English for Advanced Studies B」は, 優れた英語力を有すると認められた者のみが履修できる科目である。
		Fundamentals of English II	*2					
		Oral Fluency I	*2					
		Oral Fluency II	*2					
		TOEIC Preparation A	2					
		TOEIC Preparation B	2					
		TOEIC Preparation C	2					
		TOEIC Preparation D	2					
		English for Specific Purposes A	*2					
		English for Specific Purposes B	*2					
		English for Advanced Studies A	*2					
		English for Advanced Studies B	*2					
		中国語 I	2				4単位	第二外国語一か国語4単位(同一第二外国語のⅠ・Ⅱ)を選択必修
		中国語 II	2					
		韓国語 I	2					
		韓国語 II	2					
		スペイン語 I	2					

全学部共通基盤科目群	(2) 現象世界をつかむ	スペイン語Ⅱ						※外国人留学生は、第二外国語が国語に替えて、全学部共通基盤科目群より英語4単位を選択できるが、母語は履修できない。
		ドイツ語Ⅰ						
		ドイツ語Ⅱ						
		フランス語Ⅰ						
		フランス語Ⅱ						
		ハンガリー語Ⅰ						
		ハンガリー語Ⅱ						
		ポーランド語Ⅰ						
		ポーランド語Ⅱ						
		チェコ語Ⅰ						
		チェコ語Ⅱ						
		日本語Ⅰ	*2				12単位	■外国人留学生・指定された帰国生徒 *印のついた科目を必ず含めて、日本語科目12単位以上を選択必修
		日本語Ⅱ	*2					
		統合日本語Ⅰ	2					
		統合日本語Ⅱ	2					
		日本語アカデミック・ライティング	*2					
		日本語アカデミック・スピーキング	*2					
		社会と文化の日本語 A	2					
		社会と文化の日本語 B	2					
	(2) 現象世界をつかむ	データ分析の基礎(解析)	2				4単位	「デジタルアプリA」と「データサイエンスⅠ」は必修
		データ分析の基礎(線形代数)	2					
		自然科学概論	2					
		生命現象の理解とその応用－生命科学	2					
		環境科学	2					
		食環境論	2					
		香りと環境	2					
		情報セキュリティ A	2					
		情報社会と情報倫理	2					
		人工知能論	2					
		データサイエンスⅠ	②					
		データサイエンスⅡ	2					
		統計学		2				

全学部共通基盤科目群	(3) 現代社会の課題に挑戦する	身体を理解	2					
		デジタルアプリ A	②					
		デジタルアプリ B	2					
		生物からみた環境の仕組み - 生態学	2					
		インターネット配信	2					
		エリアスタディーズ A	2					
		エリアスタディーズ B	2					
		観光の現在と未来	2					
		ヘルスツーリズム	2					
		社会心理学	2					
		生活と文化		2				
		生涯スポーツ概論	2					
		スポーツ社会学	2					
		ボランティア論	2					
		コミュニケーションの基礎	2					
		域学共創プロジェクト A	2					
		域学共創プロジェクト B	2					
		域学共創プロジェクト C	2					
		域学共創プロジェクト D	2					
		域学共創プロジェクト E	2					
		域学共創プロジェクト F	2					
		域学共創プロジェクト G	2					
		域学共創プロジェクト H	2					
		域学共創プロジェクト I	2					
		域学共創プロジェクト J	2					
全学部共通基盤科目群	(4) 歴史をひもとく	史学概論	2					
		西洋史概論	2					
		アジア史概論	2					
		現代史入門	2					
		人類とモノづくり	2					
		房総の文化と歴史	2					
		科学史	2					

		映像メディア史	2					
		音楽史	2					
全学部共通基盤科目群	(5) 社会の構造的変動をとらえる	経済学入門	2					
		社会と経営	2					
		社会と会計	2					
		マーケティング論	2					
		広告戦略論	2					
		社会学	2					
		社会調査		2				
		日本国憲法	2					
		民法 A		2				
		商法		2				
		著作権	2					
		社会福祉学 A	2					
		社会福祉学 B		2				
		経営情報基礎論 A	2					
全学部共通基盤科目群	(6) 世界を創造する	世界遺産のいま	2					
		美学・芸術学	2					
		表象文化研究	2					
		日本の現代文化	2					
		日本の伝統文化	2					
		日本文学概論	2					
		日本の文学(古典)		2				
		日本の文学(近・現代)	2					
		日本語表現	2					
		文学のはじまりー古代ギリシア・ローマの文学	2					
		世界の文学	2					
		演劇研究	2					
		古典芸能研究	2					
全学部共通基盤科目群	(7) 知の知を追究する	教育学	2					
		心理学	2					
		基礎の数学	2					

		ジェンダー論	2					
		根拠への問いー哲学へのとびら	2					
		宗教学概論	2					
		倫理学概論	2					
全学部共通基盤科目群	(8) 心と身体の実践をはかる	スポーツ科学 A	1					
		スポーツ科学 B	1					
		スポーツ科学(ダンス)IA	1					
		スポーツ科学(ダンス)IB	1					
		しゃべりのスキル Up I	2					

〔備考〕

- (1) 全学部共通基盤科目群では、第一外国語として英語（外国人留学生・指定された帰国生徒等は日本語）を学ぶ。
- (2) 「Fundamentals of English I・II」, 「Oral Fluency I・II」は必ず履修すること。ただし、優れた英語能力を有すると認められた者は、「English for Specific Purposes A」から「English for Advanced Studies B」の4科目を履修することになっているが、本学の海外教育プログラムのうち長期留学に派遣されるため履修できない科目についてはこの限りではない。
- (3) 「Fundamentals of English II」, 「Oral Fluency II」を履修するためには、履修前提条件として、それぞれの I を修得していなければならない。第二外国語 II と第二外国語 I も同様である。
- (4) 英語科目を履修する場合は、必ずプレイスメントテストを受験すること。入学時は、オリエンテーション期間に実施する。
- (5) 日本語科目は、日本語能力試験の合格レベルに応じた科目（N2, N1）を選択すること。
- (6) 日本語能力が N2 相当の水準に達していない場合は、語学教育センターが指定する日本語クラスを履修すること。

2. キャリア形成科目群

本科目群には、大学で学ぶための基礎的な学力を身につけ、持続的なキャリア形成に資する主体的・自律的な学びを実現するための科目を配置する。「基礎ゼミ A・B」は1年次、「キャリア形成演習」は2年次の必修科目である。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年		
キャリア形成科目群	基礎ゼミ A	①				7 単位	「基礎ゼミ A・B」， 「キャリア形成演習」を必ず含めて， 7 単位以上を 選択必修
	基礎ゼミ B	②					
	キャリア形成演習		②				
	ビジネス入門	2					
	航空・空港キャリア概論 A	2					
	航空・空港キャリア概論 B	2					
	航空・空港キャリア実習	2					
	旅行・ホテル・観光 キャリア概論	2					

3. 学部コア科目群

本科目群には、グローバル化する文化や社会、コミュニケーションのあり方を多様な切り口から学び、国際社会に生きる人間としての教養を身につけ、人文学を学ぶことの意義を明確にするための科目を配置する。留学を予定する者は、「留学プランニング」を履修することが望ましい。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年		
学部コア科目群	留学プランニング	2				4 単位	4 単位以上を 選択必修
	国際コミュニケーション入門	2					
	歴史・文化の視点	2					
	異文化理解	2					
	世界の中の日本	2					

4. 外国語科目群

本科目群には、国際化社会に生きるための教養としての言語、専門分野の学修に必要な言語、また言語と社会とのつながりを学ぶための科目を配置する。グローバル化が進み、英語プラスもう一か国語の外国語の能力が求められるようになっていく。第二外国語もぜひマスターしてほしい。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
外国語科目群	TOEIC A	①				24 単位	■日本で12年間の学校教育を受けた学生または同等の能力を有している学生 16 単位を必修し、 *印のついた科目から8単位を選択必修 ※ 「English for Advanced Studies C」から「English for Specific Purposes D」は、優れた英語力を有すると認められた者のみが履修できる科目である。
	TOEIC B	①					
	TOEIC C	①					
	TOEIC D	①					
	Basic Writing Skills I	②					
	Basic Writing Skills II	②					
	Intermediate Practical Discussion Skills I	②					
	Intermediate Practical Discussion Skills II	②					
	Intermediate Writing Skills I		②				
	Intermediate Writing Skills II		②				
	Intermediate Reading Skills I		*2				
	Intermediate Reading Skills II		*2				
	Oral Fluency III		*2				
	Oral Fluency IV		*2				
	Topics for Cross-Cultural Communication: Global Issues A			2			
	Topics for Cross-Cultural Communication: Global Issues B			2			
	English for Advanced Studies C		*2				
	English for Advanced Studies D		*2				

外国語科目群	English for Specific Purposes C		*2				
	English for Specific Purposes D		*2				
	Advanced Practical Discussion Skills			2			
	Advanced Reading Skills			2			
	Business English Writing			2			
	Spoken Business English			2			
	ドイツ語Ⅲ	2				4単位	全学部共通基盤科目群でⅠ・Ⅱをともに修得した第二外国語と同じ一か国語4単位（同一第二外国語のⅢ・Ⅳ）を選択必修 ※外国人留学生は、第二外国語一か国語に替えて、外国語科目群より英語2科目4単位を履修できるが、母語は履修できない。
	ドイツ語Ⅳ	2					
	ドイツの言語・文化・社会 A		2				
	ドイツの言語・文化・社会 B		2				
	フランス語Ⅲ	2					
	フランス語Ⅳ	2					
	フランスの言語・文化・社会 A		2				
	フランスの言語・文化・社会 B		2				
	スペイン語Ⅲ	2					
	スペイン語Ⅳ	2					
	スペインの言語・文化・社会 A		2				
	スペインの言語・文化・社会 B		2				

系 列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年		
外国語科目群	中国語Ⅲ	2					
	中国語Ⅳ	2					
	中国の言語・文化・社会 A		2				
	中国の言語・文化・社会 B		2				
	韓国語Ⅲ	2					
	韓国語Ⅳ	2					
	韓国の言語・文化・社会 A		2				
	韓国の言語・文化・社会 B		2				
	ハンガリー語Ⅲ	2					
	ハンガリー語Ⅳ	2					
	ハンガリーの言語・文化・社会 A		2				
	ハンガリーの言語・文化・社会 B		2				
	ポーランド語Ⅲ	2					
	ポーランド語Ⅳ	2					
	ポーランドの言語・文化・社会 A		2				
	ポーランドの言語・文化・社会 B		2				
	チェコ語Ⅲ	2					
	チェコ語Ⅳ	2					
	チェコの言語・文化・社会 A		2				
	チェコの言語・文化・社会 B		2				

系 列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年		
外 国 語 科 目 群	日本語Ⅲ		2				■ 外国人留学生・指定された帰国生徒 日本語科目 24 単位を修得すること。 ただし、優れた日本語力を有すると認められた者は、上記 24 単位のうち 12 単位までは、母語・日本語以外の外国語科目群の科目を履修し、その修得単位を充てることができる。その際は、各科目の履修条件に十分に留意すること。 なお、特段の必要が認められる場合に限り、指定された交換留学生・短期留学生を対象とする日本語科目の履修を認め、その修得単位を上記 24 単位の一部に代えることを認めることがある。
	統合日本語Ⅲ		2				
	専門日本語（福祉・介護）		2				
	専門日本語（ホテル・観光）		2				
	専門日本語（文学・評論）		2				
	専門日本語（異文化コミュニケーション）		2				
	日本語プロジェクト教育 A		2				
	日本語プロジェクト教育 B		2				
	ビジネス日本語Ⅰ			2			
	ビジネス日本語Ⅱ			2			
	キャリア日本語（就職）			2			
	キャリア日本語（進学）			2			
	Fundamentals of Japanese A	4					指定された交換留学生・短期留学生のみが、履修することができる。
	Fundamentals of Japanese B	4					
	Fundamentals of Japanese C	4					
	Fundamentals of Japanese D	4					
	JLPT Preparation A	2					
	JLPT Preparation B	2					

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年		
外国語科目群	Intermediate Japanese Skills A	4					指定された 交換留学生・ 短期留学生のみが、 履修すること ができる。
	Intermediate Japanese Skills B	4					
	Intermediate Japanese Skills C	4					
	Intermediate Japanese Skills D	4					
	Advanced Japanese Skills A	4					
	Advanced Japanese Skills B	4					
	Advanced Japanese Skills C	4					
	Advanced Japanese Skills D	4					
	Japanese Project Education A	2					
	Japanese Project Education B	2					

〔備考〕

- (1) 外国語科目群では、第一外国語として英語（外国人留学生・指定された帰国生徒等は日本語）を学ぶ。単位数を○で囲んである科目は必修科目である。＊印の科目については、備考欄を確認すること。
- (2) Ⅲを履修するためには、Ⅱの単位を修得していなければならない。同様に、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得していなければならない。
- (3) 日本語科目は、日本語能力試験の合格レベルに応じた科目（N2，N1）を選択すること。
- (4) 日本語力が N2 相当の水準に達していない場合は、語学教育センターが指定する日本語クラスを履修すること。

5. 専門基礎科目群

本科目群には、基礎的な国際教養を身につけ、国際社会・国際協力・国際関係・国際コミュニケーションなどについて学ぶ専門教育の基礎となる科目を配置する。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年		
専門基礎科目群	国際日本学	2				8 単位	8 単位以上を 選択必修
	日本の歴史 A	2					
	日本の歴史 B	2					
	社会学入門	2					
	政治学入門		2				
	法律学概論		2				
	経済原論 A		2				
	経済原論 B		2				
	中欧の社会と文化	2					
	比較文化概論	2					
	アメリカ文学概論	2					
	文化人類学		2				
	外国史概説		2				
	近代イギリス文学		2				
	地理学 A		2				
	地理学 B		2				
	地誌			2			

6. 専門科目群

国際交流学科の専門科目は5つの科目群に分かれている。「専門科目群Ⅰ（国際関係・国際協力）」と「専門科目群Ⅱ（国際コミュニケーション）」は、「国際関係・国際協力コース」と「国際コミュニケーションコース」の2コースのそれぞれに対応する科目群である。ただし、どちらのコースを選択するかに関わらず、国際交流学科生としての専門性を高めるために、専門科目群Ⅰより10単位以上、専門科目群Ⅱより10単位以上修得する必要がある。

どちらのコースに所属するかは、3・4年次必修科目「国際交流演習」担当の指導教員が決まった後に確定する。けれども、1年次からコース選択を意識しながら計画的に履修し、系統立てて学習することが必要である。また、「専門科目群Ⅲ（日本語教員養成）」と合わせて、専門科目群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの合計で、34単位以上修得することが必要である。さらに「専門科目群Ⅳ（ゼミ研修・実践）」がある。

「専門科目群Ⅴ（教職関連）」には教育職員免許状取得などに必要な科目を配置するが、原則として修得単位は卒業単位に含まれないので、注意すること。

(1) 専門科目群Ⅰ（国際関係・国際協力）

本科目群には、国際社会や国際関係について学び、異文化理解と国際協力に必要な知識と実践力を身につけるための科目を配置する。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅰ （国際関係・国際協力）	国際協力論	2				専門科目群Ⅰ～Ⅲ合計 で34単位	専門科目群Ⅰより 10単位以上 選択必修
	国際ボランティア論	2					
	日本と北米	2					
	日本と中南米	2					
	日本とヨーロッパ	2					
	日本とアジア	2					
	アジアの女性論	2					
	国際機構論			2			
	国際開発論			2			
	国際関係論			2			
	アジア国際関係論			2			
	アメリカ対外関係論			2			
	中欧地域文化研究			2			
	開発と女性			2			

系 列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年		
専 門 科 目 群 Ⅰ (国際関係・国際協力)	文化交流史（日本：アジア）		2				
	文化交流史（日本：欧米）		2				
	日本文化論		2				
	西洋美術	2					
	文化遺産		2				
	国際法			2			
	国際経済学			2			
	Multimedia Production		2				
	Images of Japan: Literature and Film			2			
	Variable Topics in Culture and Society in Japan			2			
	Selected Topics in Japanese Manga and Animation			2			

(2) 専門科目群Ⅱ（国際コミュニケーション）

本科目群には、言語や異文化などを切り口に国際コミュニケーションについて学び、英語とその言語教育に関わる専門的な知識・スキルとより高度な英語力を実践的に身につける科目を配置する。

系 列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年		
専 門 科 目 群 Ⅱ (国際コミュニケーション)	言語学概論	2				専 門 科 目 群 Ⅰ～Ⅲ合計で 34単位	専 門 科 目 群 Ⅱより 10単位以上 選択必修
	英語学概論 A	2					
	英語学概論 B	2					
	社会言語学		2				
	言語学			2			
	言語・非言語コミュニケーション論		2				
	第二言語習得論		2				
	異文化間コミュニケーション論		2				
	異文化適応論		2				

系 列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年		
専門科目群Ⅱ (国際コミュニケーション)	翻訳の基礎 (英日)			2			
	児童英語教授法Ⅰ		2				
	児童英語教授法Ⅱ		2				
	英米児童文学 A		2				
	英米児童文学 B			2			
	発達心理学		2				
	International Communication		2				
	Language Acquisition		2				
	English Project Education A	2					
	English Project Education B	2					
	Mentor ProgramⅠ			2			
	Mentor ProgramⅡ			2			
	English Teaching MethodologyⅠ		2				
	English Teaching MethodologyⅡ			2			
	Oral English for Children A		2				
	Oral English for Children B			2			
	Presentation Skills			2			

(3) 専門科目群Ⅲ（日本語教員養成）

本科目群には、日本語を母語としない人に日本語を教えられるようになるために必要とされる専門的知識・技能およびコミュニケーション能力を身につける科目を配置する。

系 列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年		
専 門 科 目 群 Ⅲ （日本語教員養成）	日本語学概論 A	2				専 門 科 目 群 Ⅰ ～ Ⅲ 合 計 で 34単位	
	日本語学概論 B	2					
	日本語の音声		2				
	日本語の語彙・意味	2					
	日本語の文法 A	2					
	日本語の文法 B	2					
	日本語教授法（教授法）		2				
	日本語教授法 （コースデザイン・評価）		2				
	日本語教授法（教材・教具）		2				
	日本語教育事情			2			
	日本語教育実習Ⅰ			2			
	日本語教育実習Ⅱ			2			

(4) 専門科目群Ⅳ（ゼミ研修・実践）

本科目群には、専門的な知識を学び、その実践と発展を図るための科目を配置する。3・4年次には、全員がいずれかのゼミに所属して、綿密な専門教育を受ける。「国際交流演習Ⅰ・Ⅱ」は3年次、「国際交流演習Ⅲ・Ⅳ」は4年次の必修科目である。

他に、研修・インターンシップ科目を履修することもできる。1～3年次のうちに、いずれかの研修・インターンシップに参加することが望ましい。なお、「コミュニケーション・インターンシップ」は海外で日本語教育の実習を行うもので、日本語教員養成課程（副専攻）の選択科目でもある。

系 列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年		
専 門 科 目 群 Ⅳ （ ゼ ミ 研 修 ・ 実 践 ）	国際交流演習Ⅰ			②		8 単位	「卒業論文」「卒業制作」を履修する場合は、どちらか一つを選択すること。
	国際交流演習Ⅱ			②			
	国際交流演習Ⅲ				②		
	国際交流演習Ⅳ				②		
	国際交流研修 A	2					
	国際交流研修 B	2					
	国際交流研修 C	2					
	コミュニケーション・ インターンシップ	3					
	卒業論文				4		
	卒業制作				4		

7. 英語教員養成科目群

本科目群には、専門の内容以外に、教育職員免許状取得などに必要な科目を配置する。修得単位は卒業単位に含まれない。ただし、教職課程に登録している者で4年次に教育実習受講要件を満たす者のみが、各教科教育法の修得単位を卒業単位に含むことができる。

※教職課程に登録している者とは、教職課程登録カードを教務課に提出し、定められた期日までに登録費及び課程費を納めた者をいう。

系 列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年		
英 語 教 員 養 成 科 目 群	教育原理		2				各「英語科教育法」の修得単位は、教職課程に登録している者で、4年次に教育実習受講要件を満たす者のみが、卒業単位に含むことができる。
	教育課程論	2					
	教職論	2					
	教育心理学		2				
	特別のニーズ教育論		2				
	教育制度		2				
	教育方法論 (ICT 活用を含む)		2				
	英語科教育法Ⅰ			2			
	英語科教育法Ⅱ			2			
	英語科教育法Ⅲ			2			
	英語科教育法Ⅳ				2		
	道德教育の理論と方法	2					
	総合的な学習の時間の指導法		2				
	特別活動論		2				
	生徒指導（進路指導の理論及び方法を含む）		2				
	教育相談（カウンセリングを含む）			2			
	介護等体験			2			
	教育実習Ⅰ (事前及び事後指導を含む)				3		
	教育実習Ⅱ				2		
	教職実践演習（中・高）				2		

8. 特設科目群

本科目群には、外国人留学生のための日本語科目を配置する。原則として指定された留学生のみが履修でき、修得単位は卒業単位には含まれない。

系 列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年		
特 設 科 目 群	日本語（言語知識）	2					指定された外国人留学生のみが履修することができるが、卒業単位には含まれない。
	日本語（読解・聴解）	2					
	日本語 A	2					
	日本語 B	2					
	日本語 C	2					
	日本語 D	2					
	日本語 E	2					